# ＜村山地区の事例＞

## 中学生の参画を通じた地域づくりの活性化と郷土の持続可能性を願う心の育成

～ベニっこアフタースクール（山形市放課後子ども教室）の実践を通して～

# 郷土の魅力発見・体験プログラム普及事業

村山教育事務所社会教育課

**背景・課題**

・人口減少と高齢化が進み、地域を担う人材が都市部に流出することで、本県経済の活力の低下、地域コミュニティの衰退が進んでいる。
・本県の持続可能な発展のためには、山形のことを思い続け、山形の持続可能性を願う心「郷土愛」をもった若者の育成が不可欠である。
・コロナ禍で、以前に比べ「地域の魅力」や「地域のよさ」を体感する機会が減少し、「自分の地域が好き」「自分の地域に何かしたい」 という思いが醸成されにくくなっている。

**【事業の目的】**

市町公民館・コミュニティセンターにおいて実施する「**中学生が企画・実施する、小学生向けの地域のよさを体感できるプログラム**」を創設・実施することで、参加した小学生が、中学生になり事業を企画・実施していく地域を学び、地域に貢献する循環をつくる。

**目指す姿**

**中学生**

事業の企画立案・実施を通して、体験的に地域について学びを深め、小学生に対して事業を行うことで地域に貢献できたという自己有用感が高まり、地域に愛着を持つ

**小学生**

地域を知り体験を通して学ぶことで地域に愛着を持ち、中学生にあこがれを持ち、「将来自分も事業をやりたい」という地域に貢献しようとする意欲を持つ

**【具体的な取組】**

## ①プログラム作成 （パワーアップセミナー）

Step 1

・着任1～2年目の各市町公民館主事等を対象に、公民館事業で「**中学生が企画・実施する、小学生向けの地域のよさを体感できるプログラム**」の企画・立案の研修を実施。

## ②プログラムの実施 （4教育事務所）

・教育事務所の社会教育主事が公民館主事をサポートしながら、
研修会で企画した「**中学生が企画・実施する、小学生向けの地域のよさを体感できるプログラム**」を実施。
ア）当該公民館の地域資源の発見・整理・準備
イ）地域の中学生を募集し、中学生による企画・実施の準備
ウ）参加小学生を募集し、事業の実施 （地域団体等の協力も得る）

## ③プログラムの普及

・実施した事業の事例を社会教育関係職員や地域学校協働活動推進員等を対象とした研修会、講座等で発表し、各市町に普及する。
・社会教育実践者対象の指導者研修会で事例発表（2月予定）
・次年度のパワーアップセミナーで事例発表（5月予定）
・ポータルサイトに掲載

Step 2
公民館主事（県内4館）が、各教育事務所社会教育主事と一緒にプログラムを実施、地域に合わせ検討

Step 3
当該公民館の地域で事前現地調査・地域団体とのスケジュール調整

Step 4
地域の中学生を募集し、プログラムの企画準備
中学生が ① 地域資源の現地調査
② 調査をもとに、プログラムを企画
③ 小学生募集のための広報活動

Step 5
地域の小学生の参加を募集し、中学生が主体となり事業の実施

Step 6
事業の振りかえりまとめ

地域を知る情報ポータルサイトの設置 ポータルサイト ふるさと やまがた発見ナビ

（山形県全体で498件、村山地域の情報は222件を掲載中）

# 今年度の取組み　R5年度は山形市を拠点に事業を展開

## 事業開始にあたっての課題

### ○事業の趣旨、方向性の“確認・周知”

なぜ？

郷土愛をもった若者の育成が不可欠

事業実施拠点は公民館・コミセン

中学生が企画・実施し、小学生に向けて発信

### ○中学生の参画に伴う“壁”

中学生が継続的に参画するうえで、部活動、受験勉強等による時間確保の難しさ

# 事業の意義と可能性

## ○公民館の“存在意義”

社会教育の拠点として、公民館が地域づくりのコーディネートに携わる意義を改めて確認し、実践につなげられる。

## ○中学生の参画

中学生の力が地域づくりの活性化につながる。

## R5年度の見通し

・事業について、公民館、中学生、地域ボランティア等へ周知
・公民館職員等を対象とした研修機会の設定
・R6年度の公民館計画への位置づけ

**2年計画での実施**

# 今年度の取組み（中高生企画会議）

☞山形市教育委員会主催の放課後子ども教室
「ベニっこアフタースクール」の一企画として実施

## 実施の方向性

参画者（中高生等）が主になり、教室プログラムを企画・運営

当日に向けて、参画者が集って企画会議を実施

# 今年度の取組み（中高生企画会議）

## 第１回企画会議（６月）

顔合わせ・ビジョンの共有

参画者：山形市内中学生２名、高校生１名

話合いを重ねる中で生まれた「１０月頃、木の実を使った木工アートを実施する」案

「男女関わりなく楽しめて、学校でやるよりも広がりのある内容にしたい」

# 今年度の取組み（中高生企画会議）

## 第2回企画会議（8月4日）

午前はベニっこアフタースクール運営に
ボランティアとして参画

小学生への関わり方のコツ
魅力的な活動内容にする工夫
安全面への配慮　　etc…

実際に運営に携わったからこそ得られた多様な視点

「1つのプログラムを実施するにも多くの準備が必要」
という実感

表に見えない裏側の準備、スタッフ配置の重要性…

# 今年度の取組み（中高生企画会議）

## 午後はボランティアでの収穫を踏まえて企画会議

材料は「事前に準備する？」、「参加者が拾うこともプログラムに含める？」

参加者に拾わせたいが…。
事前の木の実の処理、限られた時間での実施等、
クリアすべき条件は多い。

小学1～6年生の発達段階の差を考慮した、スタッフ配置やグループ編成がポイントになる。

「工作を通じて、楽しみながら地元の自然に対する愛着を育む」というねらいを大切にしたい。

様々な条件を考慮しながら、ねらいの達成に向けて実施可能な道筋を探ることの重要性に気づく姿

# 今年度の取組み（中高生企画会議）

## 第3回企画会議（9月30日）

当日、使用する材料、物品のピックアップ

中学生1名が欠席
☞継続的な参画を考えるうえでの課題

男女が一緒に楽しめ、発達段階を踏まえた運営、プログラムを、小学生が活動している姿をイメージしながら検討

# 今年度の取組み（中高生企画会議）

## 第4回企画会議（10月14日）

当日、使用する木の実の採集と作品の試作

新たに中学生1名が参画（中学生1名欠席）

木の実を採集しながら、普段触れることが少ない地元の自然の豊かさを実感

小学生への支援が必要なポイント、「見守る」ポイントを試作しながら確認

# 今年度の取組み（企画当日）

ベニっこアフタースクール中高生企画

## 「秋の木の実でクラフトづくり」（10月28日）

参画者4名中、3名が諸事情により欠席

☞当日は中学生1名が主として運営

他の運営スタッフ

・ベニっこアフタースクールの
　協働活動支援員3名

・大学生ボランティア1名

・地域ボランティア2名

# 今年度の取組み（企画当日）

## 参画者の姿

・事前の会場準備から気を配る
・参加小学生に積極的に話しかけ、和やかな雰囲気をつくる
・「つかず離れず」の距離感で小学生と交流

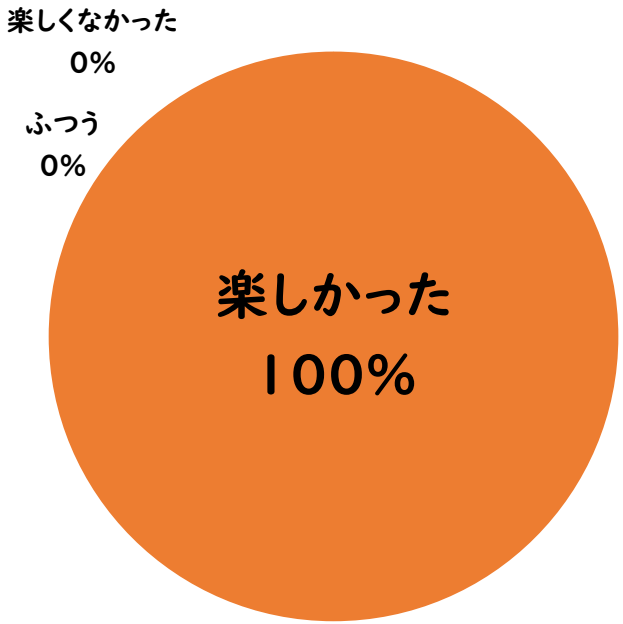
## 小学生の姿

・思い思いに作品づくりをし、運営側の想定を超えてイメージ豊かに製作
・中学生、大学生など、日頃あまり関わることのない“地域の人々”との交流

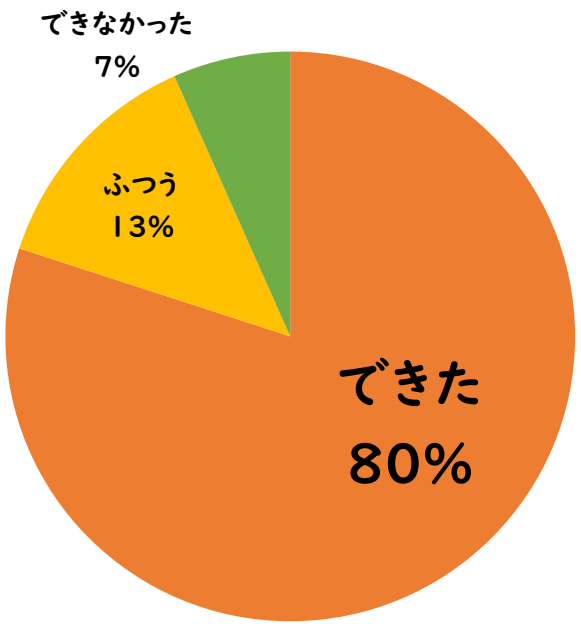
# アンケートより

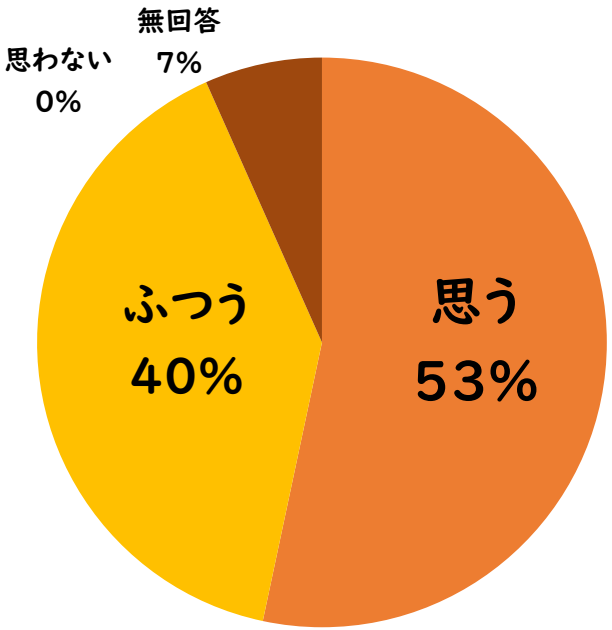
小学生（15名）

## 今日は楽しかったですか？




## 山形市の秋を感じることはできましたか？




## 中学生になったら、おねえさんたちのように小学生に教えてみたいと思いますか？

# アンケートより

小学生（15名）

・木の実などでこまなどいろいろなもので楽しめるということを教えてくれました。そして、すごくほめてもらったりして、とても嬉しかったです。たくさん話しかけてくれたりして楽しく思い出に残るようなベニっこアフタースクールになりました。私も中学生になったらたくさんほめたりして、そのときの小学生の思い出に残るようにしたいと思いました。（5年生女子）

・作る楽しさを教えてもらった。道具の使い方。（5年生女子）

・「〇〇やったらできるよ」というふうに、コツを教えてくれました。（3年生女子）

・安全にグルーガンを使用する方法を教えてくれました。作っている間にほめてくれたり、心があたたかくなりました。おかげで2つ作品をつくることができました。（6年生女子）

・長い松ぼっくりが立たなかったとき、毛糸を入れたら立つなどを教えてくれた。（6年女子）

・作り方や使い方など、優しく教えてくれた。教えてくれるだけじゃなくほめてくれたりした。（5年女子）

# アンケートより

中学生・大学生ボランティア

「どのような山形市の「よさ」を見つけましたか？」

・自然がたくさんある山形だからこそ集められる
どんぐり、トチの実、枝などの材料を使えたこと。

・多くの人が子供のために温かく接することが
できること。

・子供が自分の表現したい、やりたいことができる
環境があること。

・自然がたくさんあるところ。

# アンケートより

中学生・大学生ボランティア

「秋の木の実でクラフトづくりのボランティアで感じた、あなたの喜び、嬉しさ、楽しさ、やりがい、課題は？」

- 私たちが想定していた何倍も上の発想が出てくるので、その**子供の要望に応えられる材料や環境、対応がより重要**だと思いました。
- はじめは緊張していた子どもたちが少しずつ笑顔になれたのが、すごくうれしかったです。
- 小さい子が笑顔になってくれて楽しかったし、嬉しかった。
- 企画から最後までの約2カ月、**とてもやりがいを感じた。**

# 企画を終えて…

「中学生になったら自分も教えてみたい」と感じたたくさんの小学生

地元の自然の豊かさを再発見し、やりがいを感じた参画者

〇小学生は、参画者や地域の大人たちとの関わり合いを通じて、様々な相手とコミュニケーションをとりながら楽しく活動した。「中学生になったら自分も小学生に教えてみたい」と答えた小学生も半数を超えるなど、持続可能な取組みにつながる可能性が十分に感じられた。

〇当日、残念ながら欠席となってしまった参画者もいたが、準備段階から意欲的に取り組み、1つのプログラムを実施するのにも様々な面で配慮や工夫が必要なことを実感していた。参画者が今後地域づくりに携わる際にも、重要な知識、スキルを学ぶ場となった。

●時間確保の難しさ等がある中、参画者が事前準備や事業当日に参加できないこともあった。

# 今後の予定

## プログラム普及に向けた事業の周知・継続

・山形市内公民館職員等を対象に、公民館事業で「中学生が企画・実施する、小学生向けの地域のよさを体感できるプログラム」の企画の周知、研修

☞1/18（木）県社会教育連絡協議会研修会
2/7（水）山形市公民館職員研修会
2/9（金）成人期・高齢期教育研修会

・令和6年度公民館事業計画への本事業の位置づけ、実施に向けた検討会議を実施

# 次年度の方向性

・山形市におけるプログラム開発・実践

・実施を希望する市町の把握

・実態に応じた出前講座の実施

ご清聴いただき
ありがとうございました